

# 令和2年度 花巻市教育研究所 保幼こ小連携研究班 実践報告書

## I 研究テーマ

学びの連続性を踏まえたスタートカリキュラムのマネジメントの在り方

## II ねらい

幼児期からの学びの連続性を踏まえたスタートカリキュラムの実践を支えるマネジメントの在り方にについて実践事例を通して探り、小学校に入学した児童が主体的に自己発揮しながら学びに向かえるよう接続期の教育の充実を図る。

## III 研究員

	所 属	職	氏 名	備 考
1	ゆもと幼稚園	教 諭	佐々木 環 奈	法 人 立
2	宮野目保育園	主査 (保育士)	千 葉 文 代	公 立
3	湯本小学校	教 諭	森 田 圭 子	1年生担任
4	南城小学校	主幹教諭	熊 谷 大 輔	保幼こ小連携担当
5	花巻市教育委員会	指導主事	山 口 賢 子	こども課

## IV 研究の方向性と内容

	1年次 (R1年度)	2年次 (R2年度)
ゴール	花巻市アプローチカリキュラムと花巻市スタートカリキュラムを踏まえ、これまでのスタートカリキュラムの実践事例やビデオ事例からスタートカリキュラムの具体案を作成する。	小学校の入門期のスタートカリキュラムを支える校内体制の構築の手立てを明らかにする。
内 容	(1)これまでの花巻市スタートカリキュラム実践の検証 (2)花巻市スタートカリキュラム具体案の作成	(1)スタートカリキュラムを支える校内体制構築の試案作成と実践による検証 (2)学びの連続性を踏まえた幼小接続のための連携・交流のマネジメントの在り方

## V 実践について（別紙）

V - a スタートカリキュラムを支える校内体制の構築 保幼こ小連携班 研究員

V - b 南城地区 南 城小学校 熊 谷 大 輔

V - c 湯本地区 湯 本小学校 森 田 圭 子 ゆもと幼稚園 佐々木 環 奈

## VI 実践・結果の分析と考察

- ・今年度はコロナ禍での実践で、これまでの活動が制限されたり、計画を変更したりした中での実践であった。その中でも、組織的に校内体制を構築し、スタートカリキュラムの実施や保育園・幼稚園・こども園と連携・交流することで、児童の育っている資質・能力を多面的・多角的に捉えることができ、指導の工夫・改善につながった。
- ・全教職員でスタートカリキュラムの意義や考え方等の共通理解を図ることで、入門期の児童の発達の特性等を踏まえて児童の姿を捉えることにつながった。

- ・小学校教育で児童が主体的に自己を発揮するためには、保育園・幼稚園・認定こども園と小学校との交流・連携を通し、小学校教員が幼児期の学びと育ちを理解し共感的に関わっていくこと、保育者が幼児期の教育が小学校教育でどのように発揮されるのかを理解することなどの相互理解が重要であった。
- ・保育者は子ども一人一人が、幼児期の学びを生かして小学校教育で主体的に自己を発揮できるよう、日々の園生活を充実させるとともに、幼児期の子どもの姿を小学校へ丁寧に伝えることも大切である。
- ・その年によって入学する児童の姿は違うことを踏まえ、園との連携を図りながらスタートカリキュラムの改善を行い、次年度に生かしていくことが大切である。
- ・スタートカリキュラムを支える校内体制についても検証し、適切なメンバー、会の持ち方、役割などを今年度の反省を生かし、改善して次年度につなげていく必要がある。

## VII 実践のまとめ

どのような状況下にあっても、幼児期の教育で育まれた学びを生かし、子どもの思いや願いに基づいた学習活動を展開する中で、教師が子ども一人一人の気付きを丁寧に見取りながら、子どもが主体的に学習活動を重ねていくよう促すことで子どもの気付きの質が高まる（＝深い学び）ことが分かった。コロナ禍であっても接続期にある子どもの学びの充実を図るために、小学校と園が互恵性のある交流をそれぞれのカリキュラムに位置付けて実施したり、保育者と小学校教員が連携を図ったりして、子どもの学びを共有することを大切にしていきたい。

幼児期の遊びを通して総合的に学ぶ教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ小学校以降の教育課程は、内容や進め方が大きく異なる。その違いが生む大きな段差を滑らかにし、子どもの学びをつなぐのが「スタートカリキュラム」である。このことを全教職員で共通理解を図り、スタートカリキュラムのカリキュラム・マネジメントを確実に行っていくことが中学年以降の学びの充実につながることも念頭に置きながら実践を重ねていきたい。

## VIII 引用文献および参考文献

- ・保育所保育指針解説 2018年3月23日 厚生労働省編 株式会社フレーベル館
- ・幼稚園教育要領解説 平成30年3月23日 著作権保有 文部科学省 株式会社フレーベル館
- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月29日  
著作権保有 内閣府・文部科学省・厚生労働省 株式会社フレーベル館
- ・小学校学習指導要領（平成29年告示） 平成29年3月 告示 文部科学省
- ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編 平成29年7月 文部科学省
- ・スタートカリキュラム スタートセット  
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月
- ・発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き  
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 編著  
平成30年3月（学事出版株式会社）
- ・スタートカリキュラム実践ガイド 平成31年2月 横浜市こども青少年局 横浜市教育委員会
- ・横浜市版接続期カリキュラム第5章 スタートカリキュラム「スタートカリキュラム」
- ・育ちと学びを豊かにつなぐ 小学1年 スタートカリキュラム&活動アイデア  
嶋野道弘・田村学監修/松村英治・寶來生志子著 2020年3月 明治図書出版株式会社
- ・令和元年度（第63回）岩手県教育研究発表会資料 幼小接続  
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究  
-低学年の発達の特性に応じた指導の工夫・改善としての推進体制作り-  
令和2年2月13日 岩手県立総合教育センター 教科領域教育担当 吉田 澄江  
福田 勝雄  
早川 貴之  
及川 伸也

## 1 はじめに

令和2年4月1日から全面実施された小学校学習指導要領に「小学校学習指導要領 第1章 総則」の「第2 4 学校段階等間の接続（1）」が新設され、「スタートカリキュラム」について以下のように示された。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導の工夫をすることにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己発揮しながら学びに向かうことが可能になるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるように工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

これにより小学校においては、入学した児童の学びは「ゼロからのスタート」ではなく、幼児期に遊びや生活を通して培ってきた育ちと学びを基礎とし、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能になるようにするための「スタートカリキュラム」を編成・実施しなければならないこととなった。

そこで、保育園・幼稚園・認定こども園から小学校へ学びの「バトン」が上手くつながるよう保幼こ小連携班で校内体制についての試案作成と検証を行うこととした。

## 2 スタートカリキュラムの編成・実施を支える校内体制の構築

「スタートカリキュラムスタートブック（文部科学省 国立教育政策研究所平成27年1月）」を参考にした校内体制構築の試案

時期	○すること	◎ポイント ※注意事項 ☆参考
入学式までに (1・2・3月頃)	<p><b>Plan</b></p> <p><b>校内組織「スタートカリキュラム校内委員会」の立ち上げ・準備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スタートカリキュラムの意義・考え方・ねらいを全職員で共有</li> <li>○保育園・幼稚園・認定こども園等との意見交換、要録から子どもの実態をつかみ、子どものよさ、指導・支援を小学校のカリキュラムにつなぐ</li> <li>○スタートカリキュラムの具現化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・合科的・関連的な指導を単元配列表で形にして意図的・計画的な指導を行う</li> <li>・弾力的な時間割の設定を週計画で行う</li> </ul> </li> <li>○具現化したスタートカリキュラムを全職員で共有する</li> </ul>	<p>◎組織のメンバーを選出</p> <p>例) 校長、副校長、教務主任、現1年担任、新1年担任、養護教諭、特別支援教育コーディネーターなど、学校の実態に合わせて選出</p> <p>◎「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの姿を捉え、(何を経験し、学び、育っているのか)自己発揮できるような活動や環境を整えていく</p> <p>◎小学校での体験入学も子どもの情報を得る機会</p> <p>※入学説明会等で保護者にスタートカリキュラムの意義やねらいを丁寧に伝えることも安心につながる</p> <p>◎前年度の資料を引き継ぎ、その年度の子どもの実態に合わせて修正していく</p> <p>※必要が生じた時点で、その都度修正・更新する</p> <p>◎作成した週案について、近隣の交流のある園に見てもらうなどして、入学児童の特徴、活動傾向に沿っているか確認することで、一層カリキュラムの接続につながる</p> <p>☆参考</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタートカリキュラム スタートセット 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月</li> <li>・発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 編著 平成30年3月 (学事出版株式会社)</li> <li>・花巻市スタートカリキュラム</li> </ul> <p>◎いつ、誰が、どこで、どんなサポートをするのか等を確認する</p>

4月 （入門期）	<p><b>Do</b></p> <p><b>全校体制でスタートカリキュラムを実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○役割分担に沿って、1年生への支援、子どもの姿の把握をしていく</li> <li>○通信や懇談会でスタートカリキュラム実施の様子（子どもの姿）をエピソードで伝え、スタートカリキュラムで大事にしていることの理解を促していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎全教職員で協力体制を組み、見守り、育てる実践にする</li> <li>◎幼児期の学びを引き出し、実際に生活に生かしたり、自分で考え、判断したりする発問や友達や先生に共感してもらったり認めてもらったりする機会を設定し、安心して自分を表現し、主体的に学んでいけるよう促す</li> <li>◎環境構成を工夫し、安心感が得られる教室にする</li> <li>◎発達特性を生かし、具体的な活動や体験を取り入れる</li> </ul> <p>※事前に立てた週計画にこだわらず、子どもの実態に合わせて活動内容や時間など柔軟に見直す</p>
	<p><b>Check</b></p> <p><b>子どもの姿・指導の在り方を教師間で語り合い・共有する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○校内の職員間で語り合い共有する</li> <li>○保育園・幼稚園・認定こども園等の職員と語り合い共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎週案に子どもの姿を記録し、指導に生かす</li> <li>※子どもの姿（作品、書いたもの、発言、行動など）から取り組みがねらいに沿っているか確認する</li> <li>◎校内委員会や職員会議で、スタートカリキュラムの実施状況（子どもの姿）を共有する</li> <li>◎保育園・幼稚園・認定こども園等の先生に参観してもらい、子どもの姿や指導の在り方について意見交換をし、子どもの成長を共有する（多面的・多角的な視点で子どもの姿を捉える）</li> </ul> <p>☆参考　・花巻市スタートカリキュラム</p>
5月以降に時期を捉えて行う	<p><b>Action</b></p> <p><b>スタートカリキュラムの反省・検証・次年度に向けての改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○反省・検証 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の節目、学期末に反省・検証を行い、カリキュラムを改善し、翌月や2学期、次年度の指導に生かす</li> <li>・スタートカリキュラムの改善のため、週案等の指導の記録をデータベース化し共有する（壁面の環境や活動の写真等を含めて）</li> </ul> </li> <li>○次年度に向けての取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園・幼稚園・認定こども園との交流・連携により相互理解を図る</li> <li>・年長児の遊びを通して何を学び、何が育ちつつあるのか把握する</li> <li>・保幼小の連携・交流の様子を全教職員で共有する</li> </ul> </li> <li>○反省・検証、保・幼・こ・小の交流・連携を生かして次年度のスタートカリキュラムの改善を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎校内委員会、全教職員で反省・検証を行い共有する</li> <li>※担任個人の反省ではなく、学校全体のカリキュラム・マネジメントとして行うことで、次年度に引き継いでいく <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) スタートカリキュラムについて <ul style="list-style-type: none"> <li>①子どもが安心して、活動・学習・生活ができたか</li> <li>②子どもの幼児期の学びを小学校の学習につなげることができたか</li> <li>③自分で考え、判断し、行動する活動を意図的に仕組み、自立を促すことができたか</li> </ul> </li> <li>(2) 校内体制について <ul style="list-style-type: none"> <li>①スタートカリキュラムの意義・考え方・目的は全教職員で共有できたか</li> <li>②役割分担は適切だったか</li> <li>③幼児期の学びの円滑な接続に重要なことは何か また、必要なことは何か</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>◎授業（保育）参観を複数回設定し、児童の成長を捉えるとともに、次年度の入学生の姿を捉えていく 例）授業参観、保育参観（ニコニコせんせい体験）、給食試食会等を通じた意見交換、通信やお便りによる情報交換</li> <li>◎児童・園児の交流学習の立案・計画を通して、指導の違いや学びの連続性を捉える</li> <li>※花巻市アプローチカリキュラムや小学校学習指導要領等を踏まえて実践する</li> <li>◎校内研究会や園内研究会への相互参加による学び合いによる指導の違い、カリキュラムの違いの相互理解を図る</li> <li>※共通言語として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用する</li> </ul>